

# ごあいさつ



奈良文化財研究所は、文化財の学際的・総合的な調査研究機関として、広く「奈文研（NABUNKEN）」の略称で知られています。奈文研がおこなう調査研究の成果は、国内外における文化財の調査研究の分野のみならず、保存・修復、整備・活用の分野、そして国際的な学術交流・支援の諸事業に幅広く活かされてきました。また、文化財防災センターとも連携して、令和6年1月に発生した能登半島地震をはじめ、災害によって被災した文化財の救援・防災の取り組みにも協力しているところです。

近年は文化財の保存・活用をめぐる社会的情勢が大きく変化し、調査研究の基礎・応用の両面から、ナショナル・センターとして果たすべき奈文研の役割に期待が高まっています。令和4年（2022）には、現状と課題を「奈文研MVS 2022」（Mission, Vision, Strategy）として取りまとめ、公表しました。そのなかで重視したのは、多様な分野の調査研究をバランスよく総合化し、新たな知識や価値を生み出す姿勢でした。奈文研は、長らく歴史学や考古学を主体とする「人文科学」を調査研究の主軸として、修復技術や分析、環境などの「自然科学」の分野を取り入れて発展してきました。これらの分野をさらに発展させるのみならず、文化財・文化遺産の保存・活用の営みが生み出す社会的な効果にも科学的なメスを入れ、遺跡（サイト）のマネジメントのノウハウを加味した「社会科学」の分野の調査研究も発展させていく必要があると考えたのです。

飛鳥・藤原・平城の3宮都の都城遺跡を擁し、その後の変容・伝承の過程を表す「奈良」の歴史・文化的な固有性・多様性に注目しつつ、いわゆる「奈良学」を標榜する視座から、総合的な文化財の調査研究にアプローチする観点が重要であると考えています。

今後とも、皆様方の暖かいご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

独立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所  
所長 本中 真

## Greetings

Under the nickname “Nabunken,” the Nara National Research Institute for Cultural Properties is widely known as an institution engaged in the interdisciplinary and comprehensive research of cultural properties. These activities contribute significantly to cultural heritage research, both nationally and internationally, and to the conservation, restoration, maintenance and utilization of our cultural assets. They also result in a variety of international academic exchanges and assistance projects. Furthermore, we work with the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center to protect cultural properties from disasters and to rescue them when disasters occur, as when the Noto Peninsula Earthquake struck in January 2024.

The social situation has changed considerably in recent years when it comes to the preservation and utilization of cultural properties, with Nabunken now expected to play a greater role as a national center of both basic and applied research. In 2022, we summarized the current situation and the issues we face in *NABUNKEN MVS 2022 (Mission, Vision, Strategy)*. This policy document outlines the importance of synthesizing research from various fields in a well-balanced way that generates new knowledge and value. For a long time, Nabunken has developed by incorporating “natural sciences” like restoration technologies, analysis, and environmental studies into a research program centered around the “humanities,” principally history and archaeology. Going forward, we believe it will be vital not only to develop these fields further but also to apply the scalpel of science to social effects produced by efforts to preserve and utilize cultural properties and cultural heritage in order to promote research into “social sciences” that incorporate expertise in the management for sites of historical and cultural significance.

Nara was once home to the Asuka, Fujiwara, and Heijo Palace sites, with its subsequent history representing a process of transformation and cultural transmission. While focusing on the uniqueness and diversity of this history and culture, we consider that it is important to strive to approach the comprehensive research of cultural properties from a perspective that champions these “Nara studies.”

We sincerely hope you will offer us your warm support and cooperation from here on too.

Independent Administrative Institution National Institutes  
for Cultural Heritage  
Nara National Research Institute for Cultural Properties  
MOTONAKA Makoto, Director General

# 研究所の概要

## Outline of the Institute

奈良文化財研究所は、文化財を総合的に研究するための機関です。

奈良は南都と呼ばれた古都で、多数の古建築や古美術品が残ることから、これらを総合的に研究するのがその設立の目的でした。そして、1960年代からは、平城宮跡の保存問題を契機に、平城地区と飛鳥・藤原地区で宮跡等の発掘調査と研究を進めてきました。その成果は、古代都城の形成に関する国内外の研究や学術交流に活かされています。

また、全国各地や世界の貴重な遺跡や遺物を守り、さらに、それを活用するための基礎となる、文化財の保存・修復・整備に関する研究にも力を入れています。

このほか、地方公共団体等の文化財担当職員や海外の研究者を対象とした研修、国内外の機関との共同研究も、数多く実施しています。

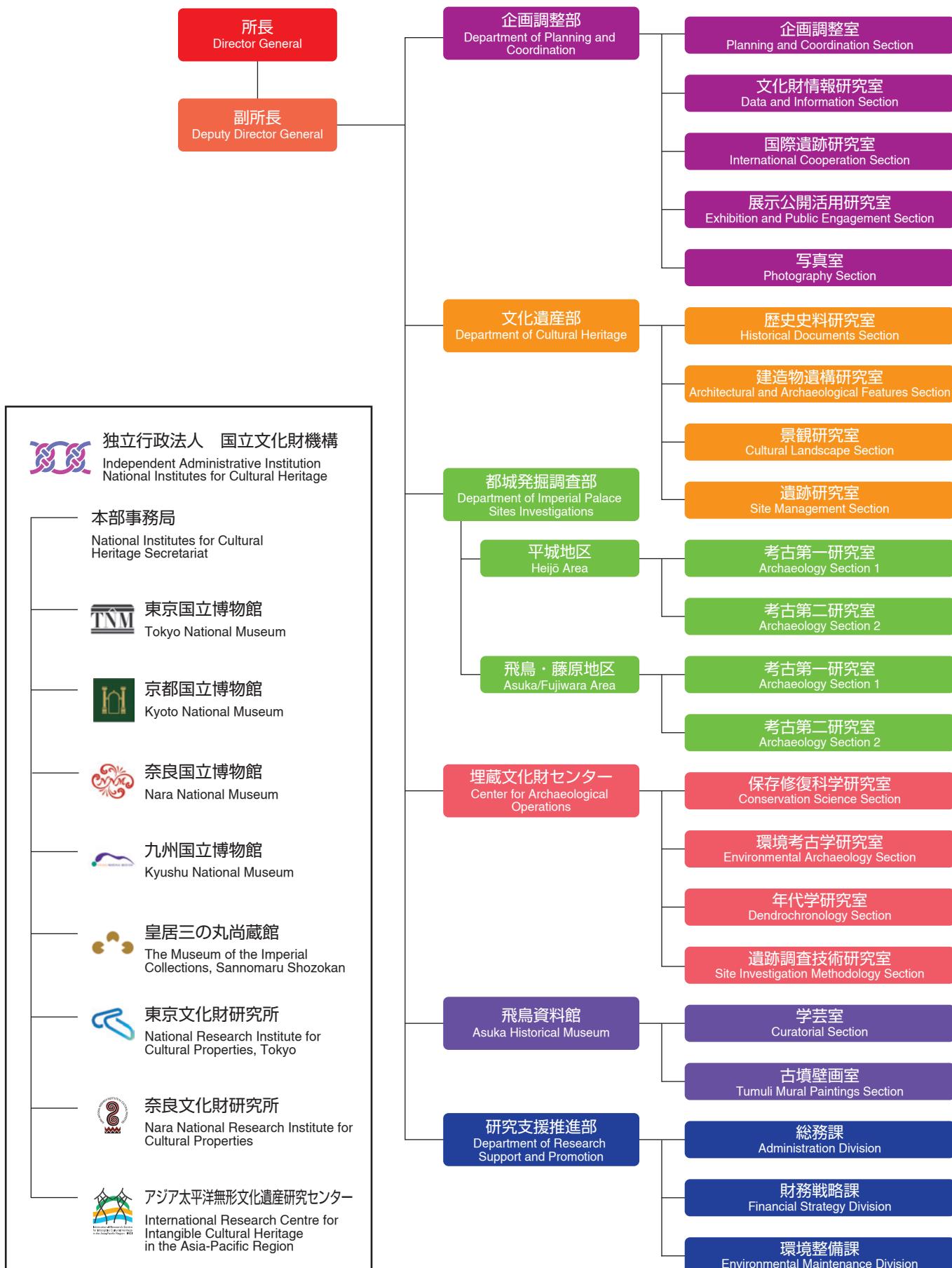
さらに、インターネット上で公開している各種データベース等を通じた多様で大量の文化財情報の発信や、平城宮跡資料館や藤原宮跡資料室、飛鳥資料館での研究成果や調査成果の展示公開も、当研究所の重要な仕事です。

近年、毎年のように大規模な地震や水害等で被害を受ける文化財が発生しています。これらの被害を受けた文化財のレスキューや、墳丘・石室に深刻な損傷を受けて崩壊の危機にある装飾古墳等の被害実態調査と対応策の検討等、被災文化財の救援をおこなっています。2020年からは研究所内に事務局が設置された機構本部の文化財防災センターと連携して、文化財防災についても積極的に取り組んでいます。

### 事業内容 Cultural Heritage Division



# 研究所の組織 Organization of the Institute



# 研究職員一覧 Research Staff

令和7年6月1日現在

所長  
副所長  
参与

本中 真  
加藤 真二  
高妻 洋成

**企画調整部**

部長  
企画調整室  
文化財情報研究室

室長  
室長  
主任研究員

清野 孝之  
清野 孝之 (兼務)  
別所 秀高  
清野 陽一 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

三谷 直哉 (併任\*)  
武内 樹治・楊 雅琳・張 賢雅  
DUDKO ANASTASIIA

国際遺跡研究室

室長  
主任研究員  
主任専門職  
室長

庄田 慎矢  
田村 朋美 (兼務)  
佐藤 由似  
神野 恵

アソシエイトフェロー

笠原 朋与

展示公開活用研究室

室長  
上席研究員  
主任研究員

石橋 明登 (兼務)  
清野 陽一 (兼務)  
高橋 知奈津 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

小原 俊行・竹内 祥一朗 (兼務)  
福島 冠如・土居 規美  
中村 一郎・栗山 雅夫  
飯田 ゆりあ

写真室

室長  
主任研究員

清野 孝之 (兼務)

アソシエイトフェロー  
専門職員  
主任

主任研究員 高田 祐一・小田 裕樹・山藤 正敏

**文化遺産部**

部長  
歴史史料研究室

室長  
吉川 聰  
山本 崇

研究員  
アソシエイトフェロー

垣中 健志  
栗原 正東  
目黒 新悟・山崎 有生・高野 麗  
島田 敏男

建造物遺構研究室

室長 鈴木 智大

研究員  
アソシエイトフェロー

神谷 友理子・横山 舜・山野 善紀  
(併任\*)・金田みゆう (併任\*)  
竹内 祥一朗 (兼務)

景観研究室  
遺跡研究室

室長  
惠谷 浩子  
室長  
高橋 知奈津

研究員  
アソシエイトフェロー

内田 和伸

上席研究員  
主任研究員 大林 潤・中島 義晴・西田 紀子  
桑田 訓也・山本 祥隆・福嶋 啓人

**都城発掘調査部**

部長  
副部長  
平城地区考古第一研究室  
平城地区考古第二研究室

室長  
室長  
主任研究員 (平城地区)

箱崎 和久 (飛鳥・藤原地区)  
今井 晃樹 (平城地区)  
和田 一之輔  
丹羽 崇史  
小田 裕樹 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

垣中 健志 (兼務)・山崎 有生 (兼務)  
我妻 佑哉

主任研究員 (平城地区)  
都城発掘調査部付併任  
芝 康次郎・川畑 純・浦 蓉子  
尾野 善裕

飛鳥・藤原地区考古第一研究室

室長  
主任研究員 林 正憲  
山本 祥隆 (兼務)・福嶋 啓人 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

谷澤 亜里・目黒 新悟 (兼務)

飛鳥・藤原地区考古第二研究室

室長 森川 実

研究員  
アソシエイトフェロー二村 真司  
岩永 玲・道上 祥武

主任研究員 (飛鳥・藤原地区) 田村 朋美・若杉 智宏

アソシエイトフェロー

式田 光

**埋蔵文化財センター**センター長  
保存修復科学研究室

室長  
主任研究員 脇谷 草一郎  
田村 朋美 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

小谷 竜介 (併任\*)・中島 志保 (併任\*)

環境考古学研究室  
年代学研究室

室長  
主任研究員 山崎 健

アソシエイトフェロー

大迫 美月・楊 曼寧

遺跡調査技術研究室

室長  
主任研究員 星野 安治

アソシエイトフェロー

坂本 匠

主任研究員 村田 泰輔・柳田 明進・山口 欧志・  
松田 和貴

研究員 上相 英之 (併任\*)

**飛鳥資料館**

館長  
学芸室

室長  
主任研究員 本中 真 (兼務)  
石橋 茂登

研究員  
アソシエイトフェロー

竹内 祥一朗

古墳壁画室

室長  
主任研究員 清野 陽一  
廣瀬 覚  
若杉 智宏 (兼務)・柳田 明進 (兼務)

研究員  
アソシエイトフェロー

浜村 美緒  
谷澤 亜里 (兼務)・道上 祥武 (兼務)  
濱松 佳生 (ヰ)・楊 萌 (ヰ)

※ (ヰ) : キトラ施設

**水中遺跡プロジェクトチーム**

副所長

部長 加藤 真二 (兼務)

**宮跡管理プロジェクトチーム**

企画調整部

部長 清野 孝之 (兼務)

部長 吉川 聰 (兼務)

都城発掘調査部

室長 林 正憲 (兼務)

室長 鈴木 智大 (兼務)

飛鳥・藤原地区考古第一研究室

主任研究員 芝 康次郎 (兼務)・  
川畑 純 (兼務)研究員 目黒 新悟 (兼務)・  
山崎 有生 (兼務)

平城地区

室長 脇谷 草一郎 (兼務)

室長 高野 麗 (兼務)

埋蔵文化財センター

主任研究員 柳田 明進 (兼務)

高橋 知奈津 (兼務)

保存修復科学研究室

主任研究員 国武 貞克

上席研究員 中島 義晴 (兼務)・大林 潤 (兼務)・  
西田 紀子 (兼務)

併任\* : 文化財防災センターに所属し、奈文研の役職を併任

主任研究員 福嶋 啓人 (兼務)

主任研究員 箱崎 和久 (兼務)

今井 晃樹 (兼務)

室長 脇谷 草一郎 (兼務)

主任研究員 柳田 明進 (兼務)・松田 和貴 (兼務)

**予算 (当初配分額) Budget (initial allocations)**

単位: 千円

		2024年度	2025年度
国からの運営費交付金 (人件費を除く)		729,851	724,999
国からの施設整備費補助金		0	0
自己収入 (入場料・科研費間接経費等)		49,695	54,658
計		779,546	779,657

# 研究所のあゆみ

## History of the Institute

奈良文化財研究所は、文化財保護委員会（現文化庁）に附属する文化財の調査研究機関として1952年に発足しました。当初は、美術工芸・建造物・歴史の3研究室と庶務室による構成でした。その後、平城宮跡、藤原宮跡の保存問題を契機に平城宮跡発掘調査部（1963年）、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（1973年）が設置されました。1973年には飛鳥保存問題に関する国の施策の一環として、1970年の閣議決定にもとづき、飛鳥資料館が設置されました。1974年には国土開発に起因する埋蔵文化財問題に対処する一方策として、埋蔵文化財センターが設置されました。

21世紀に入り、政府が中央省庁再編等の行政改革を進める中で、文化庁に附属する東京国立文化財研究所と奈良国立文化財研究所の二つの研究機関も2001年4月に統合され、独立行政法人文化財研究所となりました。さらに、2007年4月、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館が統合し、独立行政法人国立文化財機構が発足すると、奈良文化財研究所はその構成機関の一つとなり、現在に至ります。2020年には、国立文化財機構本部組織の文化財防災センター事務局が研究所内に設置され、同センターと連携した文化財防災にも取り組んでいます。

そして、2024年にはMVS2022に則り、組織改編を実施しました。2025年は、飛鳥資料館開館50周年の記念の年です。また、なによりも、国立文化財機構の中期目標期間（2021～2025年度）の最終年度であり、次の第6期中期計画も策定します。つまり、奈文研にとって、過去5年間の活動を点検評価しつつ、次の5年間の活動の指針を定める重要な年度となります。

The Nara National Research Institute for Cultural Properties (Nabunken) was founded in 1952 as an auxiliary organization of the National Commission for Protection of Cultural Properties (now the Agency for Cultural Affairs), with a view to conducting research on cultural properties. At the time of its inception, Nabunken was composed of three research divisions, specializing in art, architecture, and history, as well as a General Affairs Division. Subsequently, the problem of preserving the Nara and Fujiwara Palace sites led to the inception of the Division of Heijo Palace Site Investigations (1963) and the Division of the Asuka/Fujiwara Palace Site Investigations (1973). The Asuka Historical Museum was also established in 1973, prompted by a Cabinet decision made in 1970 as part of the government's efforts to preserve the cultural properties of the Asuka area. Furthermore, as a measure to cope with the problem of buried cultural properties resulting from infrastructure development, the Center for Archaeological Operations was established in 1974.

In the 21st century, central government ministries and agencies were reorganized as part of a package of administrative reforms implemented by the Japanese government. Tokyo National Research Institute for Cultural Properties and Nara National Research Institute for Cultural Properties (two research institutes affiliated with the Agency for Cultural Affairs) were also merged in April 2001 to form the Independent Administrative Institution (IAI) National Research Institutes for Cultural Properties. Furthermore, the Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage (NICH) was then formed in April 2007 through the merger of the IAI National Museums and the IAI National Research Institutes for Cultural Properties, with Nabunken also becoming part of this body, as it still is today. Also, the secretariat of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center (a body established within the NICH headquarters) was installed in Nabunken in 2020, with Nabunken promoting cultural heritage disaster prevention initiatives in tandem with the Center.

In 2024, Nabunken was restructured as outlined in its policy document NABUNKEN MVS 2022 (Mission-Vision-Strategy). In 2025, the Institute is celebrating the 50th anniversary of the Asuka Historical Museum. Perhaps most significantly, this year marks the conclusion of the five-year period outlined in the medium-term target period (2021–2025) produced by each NICH-affiliated institute and the beginning of efforts to formulate the sixth plan for the period from 2026 to 2030. As such, 2025 is a critical year in which the Institute will reflect on its activities over the past five years and chart its course for the coming term.



**■1952年／昭和27年4月**

文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室・美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室）を奈良市春日野町に設置

**■1954年／昭和29年7月**

奈良国立文化財研究所と改称

**■1960年／昭和35年10月**

平城宮跡に発掘調査事務所を設置

**■1963年／昭和38年4月**

平城宮跡発掘調査部を設置

**■1968年／昭和43年6月**

文化庁発足 その附属機関となる

**■1973年／昭和48年4月**

会計課・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・飛鳥資料館を設置

**■1974年／昭和49年4月**

庶務部（庶務課・会計課）と埋蔵文化財センターを設置

**■1975年／昭和50年3月**

奈良県高市郡明日香村奥山に飛鳥資料館を開館

**■1980年／昭和55年4月**

奈良市二条町への庁舎移転に伴い、平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センターを新庁舎に移転統合、美術工芸研究室を奈良国立博物館の仏教美術資料研究センターに移管

**■1988年／昭和63年8月**

飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎を橿原市木之本町に新設

**■2001年／平成13年4月**

独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所となる

**■2007年／平成19年4月**

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所となる

**■2018年／平成30年6月**

二条町新庁舎竣工

**■2020年／令和2年10月**

国立文化財機構本部の文化財防災センター事務局が庁舎内に開設

**■2024年／令和6年4月**

研究室の統合、新設、名称変更、事務組織改編を実施

**■April 1952**

The Institute was established as an auxiliary organization of the National Commission for Protection of Cultural Properties, with a General Affairs Division, Historical Research Division, Architecture Research Division, and Art Research Division, at Kasugano-cho, Nara.

**■July 1954**

The Institute was officially named the Nara National Cultural Properties Research Institute.

**■October 1960**

The office for the Nara Palace Site (Heijo) archaeological investigation was opened at the site.

**■April 1963**

Formation of the Division of Imperial Palace Site Investigations (Heijo).

**■June 1968**

Establishment of the Agency for Cultural Affairs. The Institute moves under its umbrella.

**■April 1973**

The Division of Asuka/Fujiwara Palace Site Investigations and the Asuka Historical Museum were established. The Institute's Accounting Section was also established.

**■April 1974**

Addition of the Department of General Affairs and the Center for Archaeological Operations to the Institute.

**■March 1975**

Opening of the Asuka Historical Museum in Okuyama, Asuka Village, Nara Prefecture.

**■April 1980**

The Division of Imperial Palace Site Investigations (Heijo) and the Center for Archaeological Operations moved to the new location, while the Art Research Division became a part of the Research Center for Buddhist Art in the Nara National Museum.

**■August 1988**

A new headquarters building was built for the Division of Asuka/Fujiwara Palace Site Investigations at Kinomoto-cho, Kashihara, Nara prefecture.

**■April 2001**

The National Research Institute for Cultural Properties, Nara, was granted the status of independent administrative institution.

**■April 2007**

It became the Independent Administrative Institution National Institute for Cultural Heritage, Nara National Research Institute for Cultural Properties.

**■June 2018**

Construction of the new Nabunken Headquarters building completed.

**■October 2020**

An office of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center (established within the NICHI headquarters) was opened in Nabunken.

**■April 2024**

Reorganization of Nabunken: sections merged, new sections established, some renamed, administrative divisions reorganized.

## 企画調整部

## Department of Planning and Coordination

企画調整部は、奈良文化財研究所がおこなう研究に関する事業について総合的に企画調整し、成果の活用公開を進めています。また、文化財保護に関する調査研究の中核的な拠点としての情報の収集・発信等に努め、国・地方公共団体等に対する専門的な協力・助言をおこなうとともに共同研究を調整しています。文化庁がおこなう高松塚古墳・キトラ古墳壁画の保存活用事業や国営平城宮跡歴史公園のガイダンス施設「平城宮いざない館」の運営への協力もその一例です。

これらの事業を遂行するため、以下の研究室で業務を分担しています。

企画調整室は文化財担当者研修等の企画調整をおこない、奈文研の調査研究の成果を地方公共団体等が実施する全国各地の発掘調査や文化財保護の水準の底上げにつなげています。また、近年には、査読制の論文集『奈文研論叢』の編集もおこなっています。

文化財情報研究室は、奈文研のデータベースシステムの整備充実をはかるとともに文化財に関する情報および資料を収集・整理し、内外各層の人々に提供します。また、奈文研における多言語化を推進しています。

国際遺跡研究室は、奈文研の海外との窓口として、中国や韓国との共同研究を企画調整するとともに、東南アジアや中央アジアなどの国々への協力、交流および研修等を運営管理しています。

展示公開活用研究室は、平城宮跡資料館等の展示の充実を中心に、奈文研の研究成果の市民への公開普及と新たな展示手法の試みに努めています。

写真室は、各部局が進める調査研究において文化財写真を撮影、それらを保存管理するとともに、文化財写真に関わる新技術の開発にも携わっています。



国際シンポジウム「ウクライナの文化遺産と戦災」で講演するヴィクトル・チャバイ ウクライナ国立科学アカデミー考古学研究所 所長

Victor Chabai, Director of the Institute of Archaeology under the Ukrainian National Academy of Sciences, Speaking at the International Symposium *The War and Ukrainian Archaeological Heritage*

The Department of Planning and Coordination is responsible for the comprehensive planning and coordination of research-related projects conducted by the Nara National Research Institute for Cultural Properties, and for promoting public utilization of the results. In addition, it fosters the collection and dissemination of information as a national center for research related to cultural properties conservation, and provides expert cooperation and advice to national and regional public institutions while also coordinating joint research projects with them. The cooperation furnished in the operation of the Agency for Cultural Affairs' project for preserving and utilizing the murals of the Takamatsuzuka and Kitora tombs, as well as for the Nara Palace Site Historical Park's guidance facility, Heijokyu Izanai-kan, is one good example.

For the execution of these projects, the Department divides its duties among the following five Sections.

The Planning and Coordination Section is responsible for the planning and coordination of training programs for cultural properties personnel and others, thereby linking the Institute's research results with improvements in the level of archaeological excavations and cultural properties conservation conducted by regional governments and other organizations throughout the nation. Also, in recent years, the Section is editing the peer-reviewed journal, *Nabunken ronso : papers of Nara National Research Institute for Cultural Properties*.

The Data and Information Section maintains and enhances the Institute's database system, and gathers, maintains, and provides data and materials related to cultural properties to all levels of people domestically and abroad. It is also promoting the multilingualization of the Institute.

As the Institute's international interface, along with planning joint research with China and Korea, the International Cooperation Section operates and manages academic exchanges, technical training, and cooperation with the various countries of Southeast and Central Asia.

The Exhibition and Public Engagement Section distributes the results of Institute research to the public and explores new methods of exhibition, principally through enriching the exhibitions at facilities such as the Nara Palace Site Museum.

The Photography Section, along with taking photographs related to the research activities of every department of the Institute, is involved in the production, management, and development of new technology for photographs related to cultural properties.



平城宮跡で夜間に実施したイベント「ナイト・サイト・ミュージアム」(東区朝堂院大嘗宮跡の遺構表示)

*Night Sight Museum at the Nara Palace Site (Physical Markers Showing the Scale of the Great Thanksgiving Ceremony Hall in the Eastern State Halls Compound)*

# 文化遺産部

# Department of Cultural Heritage

文化遺産部では、書跡資料・歴史資料、歴史的建造物・伝統的建造物群、文化的景観、遺跡・庭園等の文化遺産に関し、歴史史料研究室、建造物遺構研究室、景観研究室、遺跡研究室の4室が、専門的かつ総合的な調査研究をおこなっています。

歴史史料研究室では、典籍文書等の書跡資料や歴史資料について、南都諸大寺をはじめ近畿地方を中心とした諸寺社で調書作成・写真撮影を実施するとともに、都城や全国の遺跡から出土する木簡等の出土文字資料、都城に関わる文献史料等を調査研究し、その成果を全国に発信しています。

建造物遺構研究室では、歴史的建造物の調査研究や発掘調査で検出された遺構の復元検討をおこなっています。また歴史的建造物・伝統的建造物群・発掘遺構に関する資料の収集・整理・公開をおこなっています。

景観研究室では、文化的景観の基礎的研究を進めるとともに、広く国内外を視野に入れた情報収集をおこなっています。

遺跡研究室では、各種の遺跡を適切に保存管理するための計画や整備事業について調査研究をおこなっています。また、庭園の歴史および保存修理等に関する調査研究もおこなっています。

The Department of Cultural Heritage has four sections, the Historical Documents Section, the Architecture and Archaeological Features Section, the Cultural Landscape Section, and the Sites Management Section, through which it conducts specialized and comprehensive research with regard to cultural materials such as historical documents and other written materials, historic structures and groups of traditional buildings, cultural landscapes, and archaeological sites and historic gardens.

The Historical Documents Section creates catalogues and photographic records of ancient documents and other written materials and historical materials found at major temples, primarily in Nara and around the Kinki region. It also researches *mokkan* wooden tablets and other written materials excavated from the imperial palace sites and other sites across the country alongside historical documents related to the imperial palace sites, for example, with the results of this research transmitted throughout Japan.

The Architecture and Archaeological Features Section conducts research on historical architecture and examines restorations of remains uncovered during excavational investigations. It also collects, organizes, and publicizes materials related to historical architecture, traditional architecture, and archaeological features.

The Cultural Landscape Section conducts fundamental research on cultural landscapes and also collects and organizes information on cultural landscapes taken broadly from both domestic and foreign fields of view.

The Site Management Section conducts research for planning and management projects for the proper administration and conservation of various historical sites. It also carries out research related to the history of Japanese gardens and for their conservation and restoration.



歴史史料研究室：平城京左京三条一坊二坪出土の大嘗祭関係木簡の調査  
Historical Documents Section: Investigation of the Daijōsai-related wooden tablets (*mokkan*) found at the Second Block, First Ward, Third Row Avenue, Left Capital of Nara Capital

## 都城発掘調査部(平城地区)

## Department of Imperial Palace Sites Investigations (Heijō Division)

都城発掘調査部（平城地区）では、ユネスコの世界遺産にも登録されている特別史跡平城宮跡をメインフィールドに、平城京や寺院の調査研究をおこなっています。

平城京は、条坊道路によって区画された本格的な中国式都城として、藤原京に次いで2番目に造営されました。短期間で廃都となった藤原京に対して、平城京は710～784年の75年間、実質的な首都として機能しました。まさに、日本が律令国家として完成した時期にあたります。

発掘調査では、建物跡等の遺構が見つかるほか、木簡をはじめ当時の人びとが使った土器や瓦等、たくさんの遺物が出土します。特に、宮殿や官衙が集中する平城宮跡の遺物は多彩で、「地下の正倉院」と呼ばれる所以です。こうした遺構や遺物の精緻な調査研究を着実に積み重ね、古代国家の日本が成熟していく様子を詳しくし、その成果をわかりやすく社会に発信していくことが、私たちの使命だと考えています。

The Department of Imperial Palace Sites Investigations (Heijō Division) is engaged in research on the Nara capital site and temples, with the Nara palace site, a designated Special Historic Site inscribed on the UNESCO World Heritage List, as its main field.

The Nara capital was built following the Fujiwara capital as Japan's second full-scale Chinese-style capital city laid out on a regular street grid. In contrast to Fujiwara, which was abandoned after a short period, the Nara capital functioned as a genuine capital over a 75-year span, from 710 to 784. Without doubt, this is the period when Japan fully emerged as a state based on *ritsuryō* (codified law).

During excavations, in addition to discovering features of buildings and other structures, beginning with *mokkan* (wooden documents) an abundance of artifacts such as pottery and roof tiles used by people of the time are recovered. Artifacts are especially diverse at the Nara palace site, where the Imperial palace and government offices concentrate, and for this reason it is called a "subterranean treasure house." We believe our mission is to accumulate steadily the results of detailed research on these artifacts and features, clarifying thereby the manner in which Japan matured as an ancient state, and disseminate the output in easily understandable form to society at large.



平城京左京三条一坊二坪の発掘調査（南東から）

Excavation of the Second Block, First Ward, Third Row Avenue, Left Capital of Nara Capital (view from the southeast)

## 都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)

奈良県高市郡明日香村から橿原市、桜井市の一部にかけての「飛鳥・藤原」地域は、古代国家成立の歴史的な舞台であり、6世紀末から8世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地でした。今なおその地下には、宮殿や豪族の居館、最古の本格的寺院である飛鳥寺等の寺院のほか、工芸品等を製作した総合工房や漏刻（水時計）台、墳墓等、様々な遺跡が眠っています。また、この地域の北半には、古代国家の首都で最初の計画都市・藤原京がおかされました。ここには天皇の住まいや国政、国家的儀式をおこなう殿舎等の建つ藤原宮を中心に、道路で碁盤目状に区画された京域が方5km以上の範囲に広がっていました。

飛鳥・藤原地区では、これらの遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究をおこなっています。その成果を、発掘調査の現地説明会・見学会や報告書類、藤原宮跡資料室等で公開するとともに、遺跡の保存・活用に取り組んでいます。

## Department of Imperial Palace Sites Investigations (Asuka/Fujiwara Division)

The Asuka/Fujiwara region of Nara prefecture, extending from the village of Asuka to the city of Kashihara and a portion of Sakurai City, was the historic setting for the emergence of the ancient Japanese state, and served as the political, economic, and cultural center from the end of the sixth to the first part of the eighth centuries. Even today a variety of archaeological remains lie dormant beneath the ground, including imperial palaces and the residences of elite families, the sites of temples including Asukadera, the oldest cloistered Buddhist temple in Japan, plus the earthen podium of a water clock, the remains of tombs, and a workshop complex for the production of craft items. Also, in the northern half of this region lies the Fujiwara capital, built on a rectangular grid spreading out five kilometers on a side around the Fujiwara palace, located at the center of the capital and containing the emperor's residence, along with halls where ceremonies of state were conducted.

At the Asuka/Fujiwara Division, through the excavation of these sites, interdisciplinary investigations are conducted with the aim of reconstructing a concrete historic image of the ancient state. In addition to making these results widely available through public viewings and guided visits at excavations, publication of research results, and exhibitions at the Fujiwara Palace Site Museum, the Division is also dealing with the preservation of these sites and their public utilization.



石神遺跡東方の調査：須弥山石・石人像の出土で知られる石神遺跡の東方区域で、7世紀後半～末の掘立柱塀を検出し、この時期の区画の東南隅をあきらかにした（南東から）。

Excavation of the East Sector of the Ishigami Site: An object known as the Mt. Sumeru stone and a pair of stone figures were famously found in the east sector of the Ishigami site. Researchers detected post-in-ground walls constructed between 650 and 700 CE, revealing the architectural features of the southeast corner of the site at the time (view from the southeast).

## 埋蔵文化財センター

## Center for Archaeological Operations

埋蔵文化財センターは、文化財の調査手法等に関する実践的な調査研究および研修等による技術の普及、助言、協力をおこなっています。

保存修復科学研究室では、文化財の保存に関する調査と研究を進めており、出土資料の材質や構造調査から保存修復法、劣化メカニズムの解明等の実践的な開発研究をおこなっています。

環境考古学研究室では、古環境復元に関する研究法の確立を目指した調査と研究を進めています。研究の基礎となる現生標本の収集・公開も、継続しています。

年代学研究室では、年輪年代法による考古学・建築史学・美術史学・歴史学への応用的研究を進めています。

遺跡調査技術研究室では、全国の遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資するため、遺跡や災害痕跡に関するデータベースの作成と公開、地質情報からの文化財の調査や遺跡の計測など調査技術の研究をおこなっています。

また、最新の研究成果や話題を『埋蔵文化財ニュース』として刊行しています。



キトラ古墳壁画十二支「巳」の元素マップ（水銀Hg）  
A pigment map of the Snake image from the Kitora Tumulus mural paintings of the twelve zodiac animals (mercury distribution)

Along with conducting practical research regarding investigative methods for cultural properties, the Center for Archaeological Operations spreads this technology through training, and by providing advice and cooperation.

The Conservation Science Section carries out investigations and research regarding the preservation of cultural properties, and conducts practical research to develop techniques for the preservation and restoration of excavated items based on their materials and structure, and for elucidating the mechanisms of their deterioration.

The Environmental Archaeology Section carries out investigations and research aimed at establishing research methodologies regarding the reconstruction of past environments. It also continues to carry out the collection, and making publicly accessible, of modern-day specimens that are the basis of this research.

The Dendrochronology Section conducts research on the application of dendrochronology to the fields of archaeology, history, and the histories of art and architecture.

The Site Investigation Methodology Section compiles and makes publicly accessible databases on archaeological sites and traces of past natural disasters, and conducts research based on geological data and so forth on the technology for investigating cultural properties as well as for the surveying of archaeological sites, etc., in order to enhance the quality of site investigation and research, and the efficiency of archaeological excavation, throughout Japan.

In addition, the Center is publishing the latest research topics and results through CAO NEWS.

## 研究支援推進部

研究支援推進部は、研究所の管理運営業務をはじめとして、各研究部における特色ある調査研究等を積極的・機動的に実現するための事務組織として編成されています。総務課、財務戦略課、環境整備課からなり、各研究部・センターとの強固な連携関係のもとに調査研究、研修、展示公開等を円滑かつ積極的に推進する重要な役割を担っています。

業務は、運営・経営のマネジメント、評価・調整、広報等で、具体的には、運営費交付金、科研費、文化庁、国交省、自治体、寺社等からの多様な資金による事業の会計マネジメント、庶務、広報、人事、さらに平城・藤原庁舎、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の施設・設備の營繕・メンテナンスおよび防災対策、中国・韓国・カンボジア等のアジア諸国における文化遺産保護の国際協働、自治体等の文化財担当者を対象とした専門研修の庶務等です。

現在、本研究所の調査研究成果を発表する春と秋の公開講演会、東京講演会、調査研究成果の刊行とウェブサイトによる情報発信、特別史跡平城宮跡地内の大極殿・朱雀門・東院庭園・平城宮跡資料館等を解説するボランティア組織の運営等をおこなっています。

## Department of Research Support and Promotion

The Department of Research Support and Promotion has been put together as a managerial organization to conduct the operations of the Institute, and enable each research division to realize the positive and motivated performance of its distinctive investigative and research activities. Comprised of the Administrative, Financial Strategy, and Environmental Maintenance Divisions, it carries out the vital function of promoting in smooth and positive fashion the tasks of investigative research, training, exhibition, and public presentation, etc., on the basis of firm links with each research division and center.

The Department's duties consist of the management of the administration and day-to-day operations of the Institute, of evaluation and regulation, and of public promotion of its projects, which in concrete terms includes the managerial accounting, general affairs, and publicity for projects conducted with government subsidies for management, research grants, and diverse funds received from the Agency for Cultural Affairs, the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, plus regional governments, shrines, and temples, etc.; in addition, the building engineering and maintenance work and disaster prevention measures for various facilities including the Heijō and Fujiwara office buildings, the Nara Palace Site Museum, and the Asuka Historical Museum; the international cooperative work for cultural heritage preservation in China, Korea, Cambodia and other Asian countries; and the logistics of specialist training for cultural properties personnel of regional governments and other organizations.

At present, the Department conducts the spring and autumn public lectures for broadcasting the results of the Institute's investigations and research, the Tokyo lecture, the publication of those research results and the dissemination of information through the Institute's website, and the management etc. of the volunteers who provide explanations at the Imperial Audience Hall, Suzaku Gate, East Palace Garden, and the Nara Palace Site Museum of the Special Historic Site Nara Palace.



本庁舎の外観（2018年3月完成）

Exterior view of the office building (completed March 2018)

## 文化財・文化遺産をめぐる調査・研究・保護の国際学術交流

奈良文化財研究所が実施している国際交流事業には、①中国社会科学院考古研究所との都城遺跡の比較研究および学術交流、②中国河南省文物考古研究院との鞏義市黄冶・白河窯跡の共同調査、③中国遼寧省文物考古研究院との喇嘛洞墓地出土遺物等三燕文化に関する共同研究、④韓国国立文化遺産研究院との日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究および発掘調査交流、⑤カンボジア・アンコール・シェムリアップ地域文化財保護管理機構（APSARA）と連携した西トップ遺跡の調査研究・保存修復事業と人材育成、⑥文化庁からの委託による、カザフスタン共和国国立博物館との考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転事業（令和3年度に終了）、⑦ウズベキスタン共和国国際中央アジア研究所との考古遺産の科学的調査に関する技術移転事業（令和4年度に開始）、⑧英国の諸機関との日本考古学の海外への情報発信に関する共同研究、⑨台湾中央研究院歴史語言研究所との文字画像検索システム等に関する研究交流、⑩ウクライナ戦災文化財の保護に関する専門家交流、等があります。

## International Academic Exchanges Related to Research and Protection of Cultural Properties and Heritage

The Institute is currently conducting the following exchange programs: (1) a comparative research and academic exchange related to ancient capital sites with the Institute of Archaeology, Chinese Academy of Social Science; (2) a joint investigation with the Archaeological Institute of Henan Province, China, of the Huangzhi/Baihe kiln sites in the city of Gyongyi; (3) a joint investigation with the Archaeological Institute of Liaoning Province on materials such as the artifacts from the Lamadong cemetery related to the culture of the Former, Later, and Northern Yan; (4) comparative research on the formation and processes of development of ancient Japanese and Korean culture, and exchanges on excavations, with the National Research Institute for Cultural Properties, Korea; (5) investigative research and preservation projects with the Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap on the Western Top site, plus personnel development; (6) as a project entrusted to the Institute by the Agency for Cultural Affairs, the transfer of archaeological technology with the National Museum of the Republic of Kazakhstan regarding the research, recording, and preservation of archaeological artifacts (completed in fiscal 2021); (7) a technology transfer project with the International Institute of Central Asian Studies of the Republic of Uzbekistan on the scientific research of archaeological heritage (begun in 2022); (8) joint research with several institutes in England relating to the dissemination abroad of information on Japanese archaeology; (9) research exchanges on character image search systems, etc., with Taiwan's Institute of History and Philology, Academia Sinica; (10) an expert exchange program concerning the protection of cultural properties damaged in the war in Ukraine.



カンボジア・アンコール遺跡群内の西トップ遺跡中央祠堂再構築修復完了状況（東から）  
The completion of reconstruction and restoration work at the Central Sanctuary of Western Prasat Top, in the Angkor site group, Cambodia (view from the east)

## 調査研究成果の普及活動

奈良文化財研究所には展示公開施設として、飛鳥資料館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室があります。

春・秋には研究員が調査研究の成果を発表する公開講演会を平城宮跡資料館で開催しています。また、飛鳥資料館では特別展等に関係して所内外の講師による講演会や、イベントを催しています。

都城発掘調査部が実施する発掘調査では、現地説明会（見学会）を開催し調査成果を見学していただく機会を設けています。

調査研究成果を公表する刊行物には、学報、史料、研究報告、奈文研論叢、紀要、概要、図録、カタログ、奈文研ニュース、埋蔵文化財ニュース等があります。

## Publicizing the Results of Research Activities

The Institute publicly displays its research and survey results through the Asuka Historical Museum, the Nara Palace Site Museum, and the Exhibition Room of Fujiwara Palace Site.

Every spring and autumn, the Institute also organizes public lectures at the Nara Palace Site Museum in which its researchers present the results of their investigations and surveys. In addition, the Asuka Historical Museum also holds events and invites specialists, from both within the Institute and from the outside, to give lectures in association with special exhibitions of the museum.

At excavations it conducts, the Department of Imperial Palace Sites Investigations provides opportunities for the public to observe the results of their investigations by holding open site viewings (guided visits).

Publications issued by the Institute making these research and survey results publicly available include its academic journals, annual reports, compendia of historic materials and other basic data, anthologies of miscellaneous papers, illustrated guides and catalogs of exhibitions, and newsletters from the Institute and from the Center for Archaeological Operations.

## ウェブサイト

<https://www.nabunken.go.jp/>

展示公開施設の展覧会や研究員による公開講演会、発掘調査の現地説明会等の開催情報をはじめ、研究員によるコラムや平城宮跡、藤原宮跡の情報等を発信しています。

また全35あるデータベースを通じて、様々な文化財情報を発信するとともに、刊行物の一部を機関リポジトリとして全文テキストデータを公開し、研究成果の発信と普及に努めています。

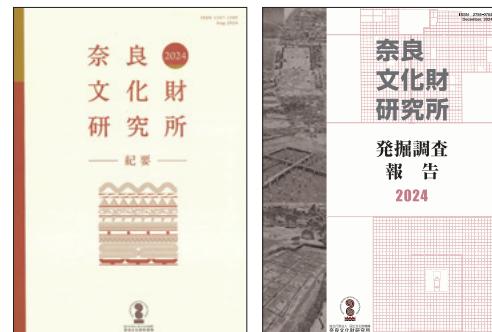


奈文研ウェブサイト  
Nabunken Web site

## Website of the Nara National Research Institute for Cultural Properties

The Website provides information on public events such as exhibits at public facilities, open lectures by Institute researchers, and public site viewings at excavations, plus information about the Nara palace site, columns by researchers, and so forth.

In addition to providing a variety of information about cultural properties, through 35 databases and other materials such as high definition digital images, efforts are being made at widely circulating the Institute's research results, through full access to a portion of its publications placed in a research information repository



2024年度の刊行物  
2024 fiscal year publications

## 飛鳥資料館

## Asuka Historical Museum

飛鳥地方の歴史的風土の保全を目的とした特別立法措置に関連して、閣議決定にもとづいて1973年に設置され、1975年に明日香村奥山に開館した歴史系の博物館です。飛鳥時代と飛鳥地方を対象として奈良文化財研究所の調査研究成果を中心に展示し、年3回程度の展覧会を開催しています。常設展示では須弥山石・石人像や高松塚古墳出土品、山田寺跡出土品といった重要文化財をはじめ、飛鳥寺跡・水落遺跡・飛鳥池工房遺跡等の出土品、高松塚古墳石室解体作業についての展示等、多彩な資料を展示しています。また、前庭には亀石や猿石等、飛鳥の石造物の精巧な模刻を多数配置し、古代の庭園空間を再現しています。

このほか、オリジナルグッズの作成やウェブサイトの充実等、魅力ある資料館づくりをすすめています。

また、国内外の古墳壁画についての調査研究を実施し、文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設（国営飛鳥歴史公園内）に関する受託事業においては、日常の管理運営と壁画公開事業、企画展示等を飛鳥資料館古墳壁画室がおこなっています。

This is a museum with a historical focus, which was established in 1973 and opened in 1975 at Okuyama in the village of Asuka, based on a Cabinet decision made in conjunction with special legislative measures aimed at preserving the historic features of the Asuka region. Its regular displays feature the Asuka period and region, centering on the results of investigations conducted by the Institute, and holds special exhibitions roughly three times a year. The standing exhibits present a variety of materials, starting with designated Important Cultural Properties such as stone carvings of a male and female image and a representation of Mt. Sumeru, plus items recovered from the Takamatsuzuka tomb, as well as materials found at the Asukadera, Mizuuchi, and Asuka-ike workshop sites, and the dismantling project for the Takamatsuzuka tomb. Also, there are detailed replicas of stone objects of Asuka in the shape of a tortoise and monkeys, placed on the museum grounds to recreate the atmosphere of an ancient garden.

In addition to the above, the museum's appeal is being enhanced with efforts such as the provision of original souvenirs and the enrichment of its website.

The Asuka Historical Museum's Tumuli Mural Paintings Section researches wall paintings found in tomb mounds in Japan and overseas. Furthermore, at the behest of the Agency for Cultural Affairs, it helps with the day-to-day management and administration of the Center for the Preservation of Kitora Tumulus Mural Paintings (located within the Asuka Historical National Government Park) while also providing support for the exhibitions of the mural paintings and other special exhibitions, etc.

公開／休館日を除く毎日9：00～16：30（入館は16：00まで）  
休館日／月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌平日）、年末年始  
観覧料／個人：一般350円、大学生200円、18才未満・70才以上無料

展覧会情報／ウェブサイト、広報物等でご確認ください。  
お問合せ／飛鳥資料館：0744-54-3561



常設展示（第2展示室）  
Regular exhibit (Exhibition room No.2)



キトラ古墳壁画保存管理施設における壁画の公開  
Public display event of the murals at the conservation and management facilities for the Kitora tumulus murals

# 公開施設 Facilities Open to the Public

## 平城地区 Heijo Area

### 平城宮跡資料館

Nara Palace Site Museum

平城宮跡西北部に建つ平城宮跡資料館（1970年開館）は、奈良文化財研究所の調査や文化財研究の様々な成果を発信する展示公開施設であるだけでなく、遺跡博物館として位置づけられる特別史跡 平城宮跡西方のエントランス施設という意義も担っています。常設展や企画展をおこなうほか、最新の調査・研究成果の発信に努めています。

The Nara Palace Site Museum (opened in 1970), located in the northwestern part of the Nara palace site, is not only an exhibition facility for disseminating various investigation and cultural property research results of the Institute, it is also significant as the site museum serving as the western gateway facility to the grounds of the Nara Palace, a Special Historic Site. The Museum has also been maintaining its permanent exhibition and organizing several thematic exhibitions.



平城宮跡資料館  
Nara Palace Site Museum

公開／休館日を除く毎日9：00～16：30（入館は16：00まで）（無料）  
休館日／月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌平日）、年末年始  
お知らせ／ボランティアによる解説をおこなっています。（無料）  
お問合せ／総務課広報企画係：0742-30-6753



秋期特別展「聖武天皇が即位したとき。－聖武天皇即位1300年記念－」  
When Emperor Shōmu Ascended the Throne : The 1300th Anniversary of Emperor Shōmu's Enthronement

## 藤原地区 Fujiwara Area

### 藤原宮跡資料室

Fujiwara Palace Site Exhibition Room

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）が、飛鳥地域や藤原宮・京でおこなってきた宮殿、寺院、古墳等の調査研究の成果を紹介するために構内に設けた展示公開施設です。藤原京がつくられる過程、完成した都の様子、住民の暮らしぶり、平城京に移った後の姿等について遺物や模型・パネルで説明しています。

The Department of Imperial Palace Sites Investigations (Asuka/Fujiwara) opened this exhibition room within the Institute to introduce its research findings concerning palaces, temples, and tomb mounds throughout the Fujiwara Palace/Capital and Asuka region. The process of building Fujiwara, the appearance of the completed capital, the way of life of the residents, and conditions following the move of the capital to Nara and so forth, are explained through displays of artifacts, models, and panels.



公開／休館日を除く毎日9：00～16：30（無料）  
休館日／年末年始ほか、展示替え期間中  
お問合せ／都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）：0744-24-1122

## 平城地区 Heijo Area

### 図書資料室

Institute Library

所外の方も奈良文化財研究所の調査研究に支障のない範囲で、資料をご利用いただけます。

遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等をはじめ文化財関連を中心に約36万冊の図書と約5000タイトルの雑誌を所蔵しています。

Persons unaffiliated with the Nara National Research Institute for Cultural Properties may use its library materials as long as this does not interfere with the Institute's investigations and research.

The Library currently holds approximately 360,000 volumes, as well as issues of roughly 5,000 journals, related mostly to cultural properties, beginning with reports on excavations and on repairs to historic structures.



公開（完全予約制）／月曜日・水曜日・金曜日  
10:00～12:00, 13:00～15:00  
12時から13時までは一旦ご退室をお願いします。  
休館日／火曜日、木曜日、土曜日、日曜日、祝日、年末年始や奈良文化財研究所が定めた休業日  
※祝日に該当した場合、翌日に開館（状況によって対応）  
※詳細はウェブサイトより利用状況カレンダーにて確認をお願いいたします。  
お問合せ／総務課文化財情報係

# 研修・指導と教育

## 文化財担当者研修と指導

文化財の保存・活用を推進し、国民に対するサービスの向上をはかるため、地方公共団体等の文化財担当職員の資質向上を目的とする研修を実施しています。2024年度は、専門研修13課程を開催しました。(2024年度文化財担当者研修課程の一覧参照)。研修の多くは、講義形式が主体ですが、実地踏査や実技・実習を取り入れた研修もおこなっています。また、一部課程ではオンラインによる講義や、地域に出向いての講義を実施しました。研修総日数60日、研修生総数329名でした。

各部・センターでは、要請にしたがって地方公共団体や関係機関が実施する発掘調査、出土遺物の保存処理、遺構の保存、遺構整備等に関して、指導および助言等の協力をおこなっています。2024年度の主な協力について一覧を別表に掲載しました。このほか、文化庁、地方公共団体、関係機関からの依頼を受けて、発掘調査をはじめ、遺跡・遺物の保存、遺跡の整備および公開に関する調査、地下遺構の遺跡探査、動物遺存体分析、年輪年代測定等の共同研究や受託研究も進めています。



文化財写真課程  
Photography course for documenting cultural heritage

## 2024年度 日本各地の遺跡・建造物等に関する指導・協力一覧 (委員の委嘱を受けているもの)

Guidance/Cooperation Related to Sites/Structures throughout Japan, 2024 Fiscal Year

(北海道)	上之国館跡 カリンバ遺跡 開陽丸遺跡		境内 胡宮神社社務所庭園 大津市文化財 故満寺石仏谷墓跡 旧和中散本舗・名勝大角氏庭園 岡遺跡 京極家墓所 紫香楽宮跡		氏城館遺跡群 松江市文化財 島根県文化財 小泉八雲旧居
(青森)	三内丸山遺跡		(岡山)	吉岡銅山関連遺跡 矢掛町伝統的建造物群 津市伝統的建造物群 高梁市伝統的建造物群 第二次山陽遺跡 鬼城山 作山古墳	
(岩手)	平泉遺跡群		(広島)	広島城跡 三次市史跡寺町廃寺跡 備後國府跡	
(宮城)	多賀城跡		(山口)	周防銅錢司跡 周防國府跡等官衙遺跡 長登銅山跡	
(秋田)	脇本城跡 払田柵跡 横手市伝統的建造物群 秋田城跡	(京都)	(徳島)	美馬市景観 徳島県文化財	
(山形)	山居倉庫	(大阪)	(香川)	快天山古墳 讀岐國府跡 丸亀城跡	
(茨城)	新治廃寺跡 水戸市史跡	(兵庫)	(愛媛)	香川県文化財	
(群馬)	上野国佐位郡正倉跡	(奈良)	(高知)	松山市文化財	
(神奈川)	橘樹官衙遺跡群		(福岡)	四十万市重要文化財の景観 土佐国分寺跡	
(千葉)	下總国分寺跡附北下瓦窯跡		(佐賀)	鴻臚館跡 大宰府史跡 春日市文化財	
(新潟)	歴史の道八十里越 佐渡市伝統的建造物群		(長崎)	肥前陶器窯跡 三重津海軍所跡 東名遺跡	
(富山)	桜町遺跡		(熊本)	名護屋城跡	
(石川)	真脇遺跡 金沢城 金沢市庭園		(大分)	鷹島海底遺跡 平戸市文化的景観	
(福井)	西塙古墳 朝倉氏遺跡 柴田氏庭園		(宮崎)	棚底城 大村横穴群 鞠智城跡	
(長野)	上田城跡 塩尻市伝統的建造物群		(沖縄)	長者屋敷官衙遺跡 咸宜園跡 大分県文化財 岡城跡 法鏡寺廃寺跡	
(岐阜)	正家廃寺跡 岐阜県文化財			生日古墳群 蓮ヶ池横穴群	
(静岡)	片山廃寺跡 遠江国分寺跡 新居関跡			中城城跡	
(愛知)	江戸城石垣石丁場跡 富士市史跡				
(三重)	三河国分寺跡 島原藩主深溝松平家墓所 大曲輪貝塚				
(滋賀)	斎宮跡 諸戸氏庭園 三重県文化財 旧賓日館 伊賀国府跡 四日市市文化財				
	多賀大社庭園 慶雲館庭園 日吉神社	(鳥取)			
		(島根)			

地方公共団体の文化財保護審議員等に係る遺跡等は除く

## Training/Guidance and Education

### Training and Guidance for Cultural Properties Specialists

In order to promote the preservation and utilization of cultural properties and improve its services for the public good, the Institute conducts training with the aim of upgrading the quality of personnel in charge of cultural properties at regional public organizations. In FY 2024, the Institute organized 13 specialized training courses (see the list of FY 2024 cultural properties specialist training courses). Most of the training takes the form of lectures, but training is also conducted that incorporates field surveys and practical skill sessions. Furthermore, the lectures for some courses were posted online, with lecturers also visiting local areas to deliver talks. 60 training days were also held, with 329 participants attending in total.

Each Department/Center of the Institute cooperates with local governments and related organizations by providing guidance and advice regarding excavations, the processing and preservation of excavated artifacts, the preservation of features, the management of such remains, and so forth, in response to requests. The major cooperative projects for FY 2024 are listed in the accompanying table. In addition, in response to requests from the Agency for Cultural Affairs, local governments, and related organizations, the Institute engages in collaborative work on or undertakes the conduct of excavations, the preservation of archaeological sites and artifacts, surveys related to the maintenance or public presentation of archaeological sites, prospection of subterranean archaeological features, analysis of faunal remains, and dendrochronological dating, etc.

## 2024年度 文化財担当者専門研修課程一覧

Training Courses for Cultural Properties Specialists, 2024 Fiscal Year

区分	課程	実施期日	定員	対象	内容	担当室	研修日数	応募者数	受講者数
専門研修	文化財担当者研修 「文化的景観調査計画課程」	6月5日 ～ 6月7日	10名	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化的景観の保護制度、地域の文化遺産を総合的に理解するための調査手法、それらを保存活用するための計画立案等についての基礎を習得することを目的とする。弱体化する地域社会の中で、行政や住民自身が地域の生活・生業の仕方やその環境に潜む歴史文化の豊かさと魅力に気づき、それらを自然基盤を含めた背景から読み取っていくための方法、また、それらのストーリーを活かした地域づくりや観光振興を支援すること等に关心を持つすべての方を対象とする。	景観研究室	3日	14名	13名
	文化財担当者研修 「文化財石垣保存整備（講義）課程」	6月12日 ～ 6月14日	50名	♪	近年の大規模地震等による城郭石垣等の被災・復旧を踏まえ、文化財石垣の保存活用に必要な専門的知識や管理活用事例などについて、地方公共団体の担当者としての基礎的な知識の習得を目指す研修をおこない、各地域の中核として文化財保護活動をおこなう者を育成するとともに、本研修を受講した者が、研修内容を踏まえた研修会の講師として活動することや指導・助言等をおこなうことを目的とする。オンラインによる講義で実施する。	遺跡研究室	3日	94名	93名
	文化財担当者研修 「文化財石垣保存整備（実習）課程」	6月17日 ～ 6月18日	10名	♪	近年の大規模地震等による城郭石垣等の被災・復旧を踏まえ、文化財石垣の保存活用に必要な専門的知識や管理活用事例などについて、地方公共団体の担当者としての基礎的な知識の習得を目指す研修をおこない、各地域の中核として文化財保護活動をおこなう者を育成するとともに、本研修を受講した者が、研修内容を踏まえた研修会の講師として活動することや指導・助言等をおこなうことを目的とする。文化財石垣保存整備（講義）課程を受講した者を対象に実習を実施する。	遺跡研究室	2日	37名	10名
	文化財担当者研修 「文化財デジタルアーカイブ課程」	7月22日 ～ 7月26日	15名	♪	デジタル技術を用いて、調査記録類（画像含む）および報告書のデジタル化や文化財コンテンツの公開活用を行うための必要な知識やスキルを習得するための研修。コンテンツのデータベース公開、オープンデータ化、著作権などの知的財産権も扱う。対面に加えオンラインも同時開講する。	文化財情報研究室	5日	76名	74名
	文化財担当者研修 「自然科学分析外注課程」	9月25日 ～ 9月27日	15名	♪	動植物遺体や年代測定などの自然科学分析を外注する際に必要な基礎知識の習得や留意点の理解を目指す研修。	環境考古学研究室	3日	10名	10名
	文化財担当者研修 「遺跡調査技術課程」	9月30日 ～ 10月4日	20名	♪	発掘調査現場や調査成果の活用に役立つ、実践的な知識と技術の習得。多分野協業に求められる視点について実習を交えながら学ぶ。 具体的には直営で必要となる地質調査や探査・計測、遺存体を含めた土壤の調査法を学び、対してどのような分析を、どのような形で委託すべきか、その際に必要な知識や判断基準は何か、加えて委託分析に向けた試料採取法について学ぶ。	遺跡調査技術研究室	5日	46名	21名
	文化財担当者研修 「石造物調査課程」	10月15日 ～ 10月18日	15名	♪	発掘調査や野外調査で実践可能な、古代中世石造物にかかる基礎知識・観察記録技術と石材鑑定、保存科学的な基礎知識を習得することを目的とする。また、地域資源としての石造物の保存と活用についても理解を深めようとするものである。	考古第一研究室	4日	13名	13名
	文化財担当者研修 「保存科学（木製遺物）課程」	10月21日 ～ 10月29日	10名	♪	出土木製遺物の保存に必要となる基礎的な知識と技術の習得を目的とした課程。 木製遺物の保存処理法を中心に、発掘現場における応急処置から一時保管、保存処理後の展示・保管環境にいたるまで、一連の流れに沿った講義と実習をおこなう。 研修を通して、受講生自身で遺物の保存処理を実践可能となること、また処理の外注に際しても適切な仕様の策定が可能となることを目標とする。	保存修復科学研究室	7日	17名	13名
	文化財担当者研修 「文化財写真課程」	11月18日 ～ 11月29日	15名	♪	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について必要な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習を通じて実技を習得する研修。	写真室	10日	24名	16名
	文化財担当者研修 「報告書編集基礎課程」	12月2日 ～ 12月6日	20名	♪	文化財調査記録に必要な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	企画調整室	5日	52名	24名
	文化財担当者研修 「報告書デジタル作成課程」	12月9日 ～ 12月13日	15名	♪	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成をおこなう実践的な技術を習得する研修。	企画調整室	5日	28名	16名
	文化財担当者研修 「データベース活用課程」	2月25日 ～ 2月28日	15名	♪	多分野から共有されるデータ資源を、発掘調査でどのように活用し得るか、発掘調査成果をどのように他分野へ情報的継承出来るか、外の分野からの視点を交えて習得する。	遺跡調査技術研究室	4日	4名	4名
	文化財担当者研修 「文化財三次元計測課程」	1月21日 ～ 1月24日	12名	♪	文化財のフォトグラメトリに関する基礎知識と実技を講義と実習により習得する。RealityCaptureを用いて写真から三次元モデルを構築する方法、フォトグラメトリ用の写真撮影、そしてQGISおよびCloud Compareを用いて三次元モデルから図面の下図を作成する方法の基礎を習得する研修。	遺跡調査技術研究室	4日	22名	22名

## 京都大学（大学院）との連携教育

京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野の客員教員として玉田芳英（考古学）、清野孝之（考古学）、馬場基（史料学）、山崎健（環境考古学）、脇谷草一郎（保存科学）の5名がそれぞれの講義、演習および実習をおこなうとともに、文化遺産学分野を専攻する院生に対して研究指導をおこないました。

2024年度には、修士課程2名、博士後期課程4名を受け入れ、研究指導をおこないました。

## Collaborative Education with Kyoto University (Graduate School)

As adjunct faculty with Kyoto University, Graduate School of Human and Environmental Studies (Department of Cultural Coexistence, in the field of Studies of Cultural Heritage under the Course on Cultural, Regional and Historic Studies on Environment), the five Institute researchers of TAMADA Yoshihide (Archaeology), SEINO Takayuki (Archaeology), BABA Hajime (Historical Documents), YAMAZAKI Takeshi (Environmental Archaeology) and WAKIYA Sōichirō (Conservation Science) provide guidance at the Institute to graduate students specializing in cultural heritage studies, in addition to conducting their separate lectures, seminars, and practical training.

In the 2024 fiscal year, a total of 6 students received research guidance, with 2 admitted to the master's program and 4 to the doctoral program.

## 奈良女子大学（大学院）との連携協力

奈良女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻文化史論講座の客員教員として、今井晃樹が「東アジア考古学特論・演習」、神野恵が「歴史考古学特論・演習」、桑田訓也が「木簡学特論・演習」を担当し、博士後期課程の大学院生等計8名（今井1名、神野1名、桑田6名）への講義演習をおこないました。いずれも平城宮・京跡等の遺跡や出土遺物の検討、東アジアとの比較研究等、奈文研の調査研究に密着した授業であり、奈文研ならではの特色ある教育を実践することができました。

## Collaboration with Nara Women's University (Graduate School)

As adjunct faculty with Nara Women's University, Graduate School of Humanities and Sciences (Department of Comparative Culture, Cultural History Course), IMAI Koki provides instruction on “East Asian Archaeology,” JINNO Megumi on “Historical Archaeology,” and KUWATA Kuniya on “Wooden Document Studies,” with all three giving research guidance to the eight students currently enrolled in the doctoral program (Imai: 1 student; Jinno: 1 student; Kuwata: 6 students).

Each of these courses gives graduate students the rare opportunity to engage directly with the Institute's research, including examining archaeological features and artifacts recovered at the Nara Capital and Nara Palace sites as well as comparative studies with artifacts from across East Asia, offering an educational experience found nowhere else.

## 奈良大学への教育協力

2012年の「奈良大学に対する奈良文化財研究所の教育協力に関する協定書」にもとづき、2024年度は後期の「文化財修景学」（全15回）に内田和伸・中島義晴・脇谷草一郎・大林潤・惠谷浩子・高橋知奈津が出講しました。講義内容は、史跡等整備に関する歴史・理念・事業の流れ・技術の体系、遺跡の保存科学、平城宮跡隣地講義、町並み保存、名勝の保存と活用、文化的景観の調査と活用でした。

## Educational Cooperation for Nara University

Pursuant to the 2012 “Agreement on Educational Cooperation between the Nara National Research Institute for Cultural Properties and Nara University,” Uchida Kazunobu, Nakajima Yoshiharu, Wakiya Sōichirō, Ōbayashi Jun, Edani Keiko and Takahashi Chinatsu gave lectures during the second term of the 2024 Cultural Property Landscape Studies course (15 lectures in total). Lecture topics included: the history and key principles of historic site maintenance as well as project flows and technological frameworks; the science of historical site conservation; areas adjacent to the Nara palace site; the preservation of townscapes; the preservation and utilization of scenic spots; and the investigation and utilization of cultural landscapes.